

(19) Japanese Patent Office (JP)

(12) Utility Model Publication (U)

(11) Utility Model Publication Number

Utility Model Publication No. SHO 57-172504

(43)Publication Date: October 30, 1982

(51) Int.Cl. ⁵	Reference Code	Reference Number
A43B 13/22		6670-4F
5/06		6670-4F

Request for Examination: Filed

(2 pages in all)

(54) Slip-resistant shoe sole
(21)Filing Number:UM SHO 56-62300

(22)Filing Date: April 27, 1981

(72) Inventor Shozo Kawakita
346 Nonaka-cho, Kurume-shi

(71) Applicant Japan Rubber Kabushiki Kaisha
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo

(57) 【 Claim 】

What is claimed is

An outsole comprising a plural of wave-shaped projecction 2 arranged in a lateral direction on bottom surface A,

wherein a hight of said wave-shaped projection 2 is set to be different alternately or a hight of some sets of said projections are set to be different alternately; and,

wherein a hight of each wave-shaped projection 2 is partially different.

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57—172504

⑤ Int. Cl.³
A 43 B 13/22
5/06

識別記号

庁内整理番号
6670—4F
6670—4F

③ 公開 昭和57年(1982)10月30日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑥ 防滑性靴底

久留米市野中町346番地

① 実 願 昭56—62300

⑦ 出 願 人 日本ゴム株式会社

② 出 願 昭56(1981)4月27日

東京都中央区京橋1丁目10番1号

③ 考 案 者 川北昭三

⑧ 実用新案登録請求の範囲

多数条の波形突起体2が横方向に突設された接地底Aに於て、該波形突起体2が隔条毎に、若しくは複数条毎に高低差を有し、且つ、単条の波形突起体2には、部分的に高低差を設けたことを特徴とする靴底。

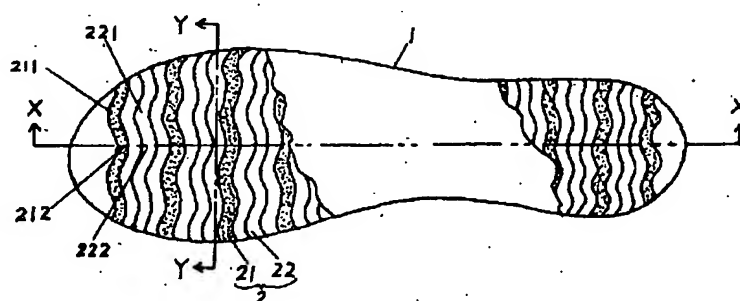
図面の簡単な説明

図面は実施例を示すものであつて、第1図は接地底の平面図、第2図は背高の突起体を隔条毎に設けた場合の靴底のX—X断面図、第3図は背高の突起体を2条毎に設けた場合の靴底のX—X断

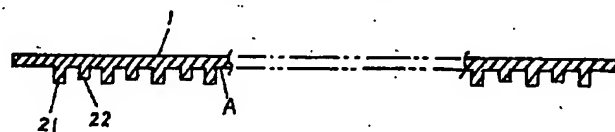
面図、第4図は靴底のY—Y断面図、第5図は長方形の波形突起体の断面図、第6図は逆梯形状の波形突起体の断面図、第7図は台形状の波形突起体の断面図である。

符号の説明、1…底主体、2…波形突起体、21…背高な波形突起体、211…背高な波形突起体の爪先方向に彎曲した頂部、212…背高な波形突起体の踵方向に彎曲した頂部、22…背低な波形突起体、221…背低な波形突起体の爪先方向に彎曲した頂部、222…背低な波形突起体の踵方向に彎曲した頂部、A…接地底。

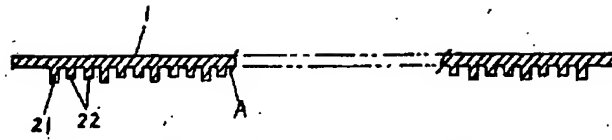
第 1 図



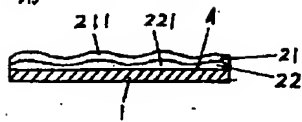
第 2 図



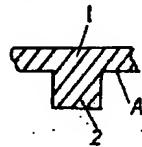
第 3 図



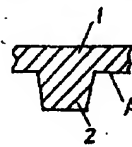
第 4 図



第 5 図



第 6 図

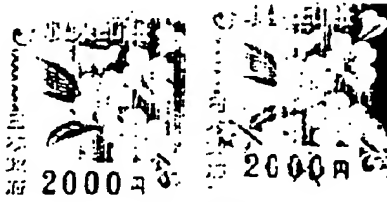


第 7 図



公開実用 昭和57— 172504

(文2)



正本

実用新案登録願

昭和56年4月27日

送

特許庁長官 殿

ボウカツセイ クツソコ

1 考案の名称

防滑性靴底

2 考案者

住所 福岡県久留米市野中町 3 4 6 番地

氏名 カワ 北 昭 三

3 実用新案登録出願人

〒104

住所 東京都中央区京橋 1 丁目 1 0 番 1 号

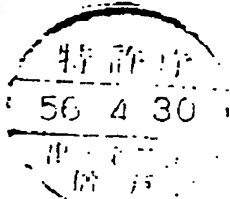
名称 (443) ニホン ゴム 株式会社

代表者 イシ ハシ トクジ ロウ
石 橋 徳次郎



4. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 出願審査請求書 | 1 通 |



30

方式審査



56 062300

172504

明 細 書

1 考案の名称 防滑性靴底

2 実用新案登録請求の範囲

多数条の波形突起体 2 が横方向に突設された接地底 A に於て、該波形突起体 2 が隔条毎に、若しくは複数条毎に高低差を有し、且つ、単条の波形突起体 2 には、部分的に高低差を設けたことを特徴とする靴底。

3 考案の詳細な説明

この考案は、ジョギング用や一般の運動用に適した運動靴の靴底に関する。

その目的とするところは、舗装道路や凹凸の多い非舗装道路、及び降雨中若しくは降雨後の滑り易い路面等を歩行又は疾走する際に、靴底の接地面と路面間の防滑性を良くし、且つ一般的なスポーツ用にも適した、履心地のよい靴底を提供しようとするものである。

従来、靴底の接地面側に滑り止めのために単数又は複数の山形、波形、齒形、円柱状、楕円形状及び多角形状等の突起体を設けた靴底、或い



は溝、幾溝若しくは切れ目や凹みを設けた靴底、更にこれ等を組合せたことで、全方位に防滑性を附与した靴底は周知である。

然しながら、前記のような防滑用の底意匠を装着した靴を着用して運動する際、殊に疾走中における前後方向、斜め方向、或いは横方向に対する滑りを抑止することは容易でなく、なかんずく、クイック、ターンやシヨート、ターンのような複雑な動作をする場合、或いは敏捷性を要する運動をする際に、その動作に対応して、靴底の防滑効果を充分に発揮することは困難であつた。前記の円柱状、楕円形状、若しくは多角形状等の突起体は、比較的に全方位に防滑性を有するが、負荷が突起部に集中するために突起部の摩耗が著しく、耐用性の点で問題があつた。更に、凹設された底意匠は、体育館や床面等の凹凸の少ないフラットな面に対しては、床面との吸着性や把握性の面で優れ、また突起体を設けた靴底に比較して、履用時の異和感も少なく、履心地も良いが、屋外の軟弱な地面や、



砂利、砂や凹凸の多い地面に対しては、靴の接地面との把握性の点で劣り、また、砂利、砂等が凹部に挟まつたりして都合が悪い面もあつた。更に、雨天時に舗装道路や陸上競技用の全天候性舗装面を疾走する際には、靴の接地底と路面間に水膜が介在し易く、所謂ハイドロ、プレーン現象を誘起して、接地面の防滑性を喪失し、転倒しやすくなる等の欠点があつた。更に、上記の底意匠を適宜組合せることで、これ等の欠点を補つた靴底も見られるが、底意匠のデザインが複雑になり、従つて、モールドの工作が煩雑でコスト高になるという欠点があつた。

この考案は、前記の欠点をなくしたもので、多数条の波形突起体2が横方向に突設された接地底1において、該波形突起体2が隔条毎に、若しくは複數条毎に高低差を有し、且つ単条の波形突起体2には、部分的に高低差を設けたことを特徴とした靴底を提供しようとするものである。

本考案の構成を実施図面に従つて説明すれば、



底主体 1 の接地底 A に横列に突設された波形突起体 2 の波形形状、配列ピッチ、接地巾、断面形状及び背丈の寸法は、接地底 A の防滑性、耐用性、及び機能性をも勘案して適宜設定されている。即ち、第 1 図の如く、波形突起体 2 は波形曲線の爪先方向及び踵方向に交互に彎曲した頂部附近 2 1 1、2 1 2、2 2 1、2 2 2、又は波形突起体 2 の適宜個所に、地面に対して幾分山状に突設された突出部（第 4 図）、2 1 1、2 2 1 更に幾分背高な波形突起体 2 1（以下背高突起体とする）は、波形突起体 2 配列の隔条毎（第 2 図）に、若しくは複数条毎（第 3 図）に配置されている。

詳しくは、走行用の靴の場合は、底主体 1 の厚みを若干薄めにして走行時の屈曲動作を容易にし、波形突起体 2 の配列ピッチを 5 ～ 10 mm 程度に粗目にし、波形突起体 2 の接地巾もやや広めにし、また、波形突起体 2 の断面形状は長方形（第 5 図）、或いは底主体 1 側が巾広になつた逆梯形状（第 6 図）に、或いは、その他の

防滑性が顕著になる形状（第¹⁷図）であればかまわないが、要は、走行時に掛る衝撃力、キック力等に耐え得る構造であることが肝要である。更に、背高突起体 2 1 は、第 3 図の如く波形突起体 2 配列の 2 ～ 3 列毎に設けられ、波形突起体 2 の上面に積層するように形成された突出部 2 1 1、2 2 1 は、あたかも山並みの連峰のような凹凸状を呈し、該突出部 2 1 1、2 2 1 は、並列に、或いはランダムに、若しくは靴の用途に応じて適宜に配置されている。他方、一般のスポーツ靴やレジャー靴のように、運動性と良好な履心地を同時に兼ね備えることを要する靴の場合は、波形突起体 2 のピッチを 3 ～ 5 mm 程度に密にし、波形突起体 2 の接地巾及び背丈はやゝ小さめに設定し、波形突起体 2 の断面形状も、走行過程に過重な負荷が掛ることも少ないので、モールド工作の簡易性を考慮して長方形状、逆梯形状等が採用されている。更に、背高突起体 2 1 は隔列に配置され、突出部 2 1 1、2 2 1 の高さも 1 ～ 2 mm 程度に小さめにすれば、



靴着用時に背高突起体 2 1 や突出部 2 1 1、
 2 2 1 によつて異和感を感じることも少なくなる。
 この考案の靴は、ゴム、若しくは塩化ビニ
 ル、ナイロン、ポリウレタン及びアイオノマ
 ー樹脂等の熱可塑性樹脂で、比較的耐摩耗性
 及び反撥弾性に富んだ底材を用いて、射出成形
 法、加圧成形法等で成形されたものである。
 この考案の防滑性靴底は、前述の構成と特徴を
 持っているので、靴を着用して歩行又は走行す
 る際、靴の接地面に掛る衝撃力、キック力等によ
 り、靴の接地面が滑るように作用するベクト
 ル力、即ち、地面に平行に作用する分力を効果
 的に抑止することができる。
 前述の背高突起体は、前後方向及び斜め方向の
 滑りに効果的であり、殊に、突出部は競技用の
 スパイク靴のスパイクのような働きをし、全方
 位に抜群の防滑効果をもたらすことができる。
 しかも、突出部は波形突起体の上面に一体的に
 連設されているので、単独に突設された突起体
 に比較して、衝撃力、押圧力、その他の応力に



対して材料力学的に強い構造となつている。更に、靴着用時の履心地は、スパイク靴のように履心地より機能性を追求したものと異なり、異和感も少ないので、ジョギング用等の運動靴だけでなく、レジャー履にも好適である。靴着用者の運動、即ち、踵部辺での着地より爪先部辺での踏切によつて浮上する一連の動作の際、最初に背高突起体が接地し、体重や衝撃力によつて背高突起体が押圧され、続いて背低な突起体が接地するので、足裏に対しては心地よいクッション効果をもたらす。更に、背高突起体が摩耗しても背低突起体はその代役を果たすので、靴の耐久性は顕著である。前述のように、背高突起体の配置間隔は、ジョギング用及びレジャー用等の用途に応じて適宜に配置されているので、接地底に負荷が掛つた際に、背高突起体同士が重なり合つて防滑機能を喪失することもなく、背高突起体相互の干渉を排除できるので防滑効果は著しい。更に、波形突起体の配列の中で、背高突起体と背低突起体が適宜に配置されてい



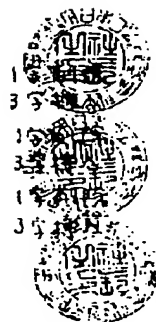
るので、砂利、砂等が挟まることも少なく、よしんば挟まつても容易に除去でき便利である。他方、背高突起体の背丈の差異は、モールド製作過程で波形突起体の接地面を切削する際に、若干加減するだけでよく特別な手間を必要としないので、モールド、コストも安価になり、しかも、抜群の防滑性を持った靴底を得ることができる。

4. 図面の簡単な説明

図面は実施例を示すものであつて、第1図は接地面の平面図、第2図は背高の突起体を隔条毎に設けた場合の靴底の縦断面図、第3図は背高の突起体を2条毎に設けた場合の靴底の縦断面図、第4図は靴底の横断面図、第5図は長方形状の波形突起体の断面図、第6図は逆梯形状の波形突起体の断面図、第7図は台形状の波形突起体の断面図である。

符 号 の 説 明

- 1 … 底主体 2 … 波形突起体
- 2 1 … 背高な波形突起体



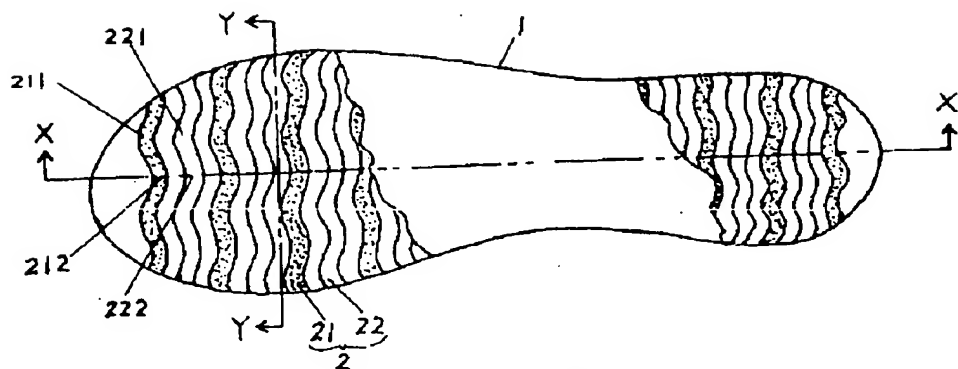
2 1 1 ... 背高な波形突起体の爪先方向に彎曲した
 頂部 2 1 2 ... 背高な波形突起体の踵方向に彎
 曲した頂部 2 2 ... 背低な波形突起体
 2 2 1 ... 背低な波形突起体の爪先方向に彎曲した
 頂部 2 2 2 ... 背低な波形突起体の踵方向に彎
 曲した頂部 A ... 接地底

実用新案登録出願人の名称

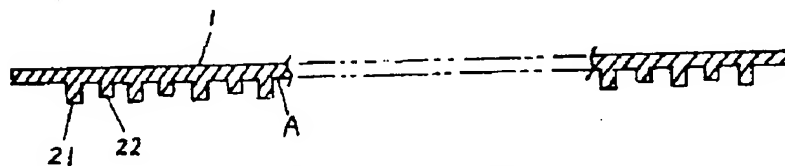
日本ゴム株式会社



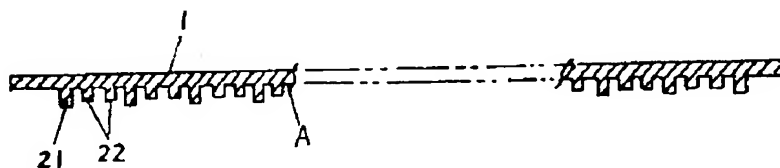
第 1 図



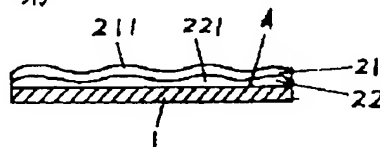
第 2 図



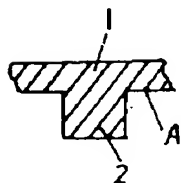
第 3 図



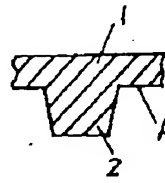
第 4 図



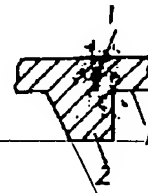
第 5 図



第 6 図



第 7 図



172504